俳風

柳多留 二十天 編

へ9
1147
25

25

門へ 9特
號 1147
巻 25

宮城県図書館蔵書

拙句百首五篇序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義乃撰深くし往昔ハ織出る夜に継て
燈に遊へるか如紋羨の数測くし耳にみ
てり手進て家名を其身ある五其角文八な
し然

帘中庵主述

寛政むとし秋

雨晨差へ枝とかしきぬ月代入生　門標
夾竹のあ亭吾妻乃雨土産　玉章
四もじ目乃勅使ハ礼しれの之　文集
秋乃日へないもの出るおかくさえ　変仕
まかて出る沙洲ハ秋子連　五連
手合の夜なへハおひざとこまか来　亀遊
下駄乃上ミしてんろかれハ笠　雨譚
六十帖も盛入るとのかくり　三交
まはらしかなし面かい帝枕　窓梅

偽無て柏木ふ花がさけ　一山
おくゐふ千ゑ若いの〳〵井さふ入り　東李
二ア人り　足沼　赤川　尼水
おくの奥一ヒ　ふくうとさ　七竜
一日入鮫〳〵ハ桃の実とにげる　風声
提尺〳〵る色ゑ入ゑこのよさ　豊好
かさをとれ赤の稲荷ぐ雨ふり　ふよめ
六月の朔日　宣と　歳が生ハ　紀原
上ゑ方入ゑ女のぐくを出　亀鳥

大一時正　民雑がうてるひり　芳文
先許まく　おるく　ぬい　ふ　ゑ　カテら
候とゑ入ゑ　ぬ太鳥が中十日　三朝
地竈の烟ゑ　ゑく　しナ二年　芳蝶
花さう伊吾　悟く一首ゑんぐ　殷ら　哥遊
ゑ冠ゑ義人ハ口ゑ　如雀
一生ふ　れ肉をゑさ出さ　三丁
はゑを呑ゑ　ふが玉ふ　疵　連鳥
東芳乃宿人二月下旬出ら　湖水

[illegible]ハ[illegible]世乃治ッ出てざ[illegible]　和國
出[illegible]和国の[illegible]物　孤雲
てきて[illegible]乃津景の[illegible]　千崖
二百十[illegible]ふさ城ふき[illegible]　義徳
門の[illegible]人ぐ[illegible]　程声
と夫ぬの内[illegible]　吉川
[illegible]日[illegible]　長故
盗人い虎[illegible]　杏貞
[illegible]　五鳥

[illegible]の[illegible]　文子
[illegible]士と[illegible]馬[illegible]　紀樂
[illegible]　浦舟
[illegible]　珍鳥
[illegible]　子誠
[illegible]出る　麥雨
[illegible]　五鼠
[illegible]　口吾
[illegible]　羊先

撞の梅ふるさとの花ながらかくれ出る　紀鳥
油仏の張るとあらくどといひ　一馬
寒拝もうんごとふむ油雲　喜水
むしをはらふ富士火とぼし　湖舟
いいさびしまのうらくらきいみそ　儘成
幸も白もほのぼのとかたてには　高簾
梅のもとうん地こ明くとき　石介
まのさらぬ人と山吹おいくつけ　清子
花はかとうんどてる福ゝう　邑市

水性ぞ伊ろハけひさ花ろ山　詠師
たろうゝうゝみ蛾いくまし　柳雨
更年の月い孫うろの志てうか　扇朝
ぐろ王らゝおいらんうゝのう　秀印
此ら川ろ衣うゝむまるろ年うゝ小　糊志
名のうゝいる体徒利中殿とわり　若竹
ふうゝをいてうゝまもぬとうて哲　百蔦
川蛍小さうゝ慶光のそぞもくん　川鳥
むぶ亡の声ゝ縁素渦ぐ明　桂里

江戸の馬田舎芝居つがも絵忘　東鳥
山川うきのう名代乃トいけ　東湖
ぐぐぐとそしらかれと猫と下女　亀水
さそくおちぶ男かいをかさづけら　不醉
書下りをとくうら絵をちぎり　周栗
で乗ぶ俳をを分がさ川ゝ北　漏安
小町のよう為中へけ出ま　鳳頭
戦英雄こをと振しを原がらし　丸萬
れ乗ふいゝふく小ゝ姫の乗　姫小

一月　上方ゝ小判をみをくゝび　里鳥
長猫と小判とむをを泳ゝてふゝ　志學
つゝちゝ名ゝゝ川ゝき大光ゝ　花丈
ち壹の十九歳老ハ玉とさら　今紀原
そい軍の蛍屋乃上をんび　兎舟
西ゝゝ北ゝの河ハルをむを　康丸
電をゝゝハ云徒ゝを拾　宣川
扇屋の雪　京　江流を　生　左笠
行の西産ゝ山ゝを命ゝ　圓之

大雲と吹くなり姫中くまる　東里
さくらもり姫ゆかぶとやまと　渡柳
砕さかてゝ心いゆぬる大海日　玉如
きくらゝ妙と夢の　綺席
和者化ゝ花四ゝ川　顔六
庵ゝの玉後ゝ月がげひるゝ　澤志
遠のまへきもとつゝ　角香
のハナ小玉もゝ西さづけ屋若ゝ　霞朝
蓮の葉乃上へ手ゝ　鬼郷

飛かもゝ乙乃月呂ゝん　柏之
虎髭のぶつゝ　半場・守静
軍ゝ　
ゝ小さゝ油ゝ　三柳
大門の廉片　五函　西箕山　聽山
長ハ火ひを　昌後店　春魚
飛かも文中の月と　莞爾
大学ゝ鹽の　和泰
春京の油ハ　雅情

[illegible]ハ下女牡丹[illegible]ら散木
[illegible]冠[illegible]傘を持王章
[illegible]のやむ間多
[illegible]ら徒も拍も上り
桃の花冠へ[illegible]
[illegible]夜庭草ふかの者
[illegible]の上[illegible]島の[illegible]
花の聖日[illegible]毛出[illegible]
[illegible]

[illegible]つ油[illegible]
けづり[illegible]ハ[illegible]
羽[illegible]毛[illegible]
琴名[illegible]ハ桃花が[illegible]
汚者の[illegible]ぐ只の佐後と
美〻ふんぐん〻紫ぐんと欠後る
去月のけ[illegible]十自琴と[illegible]
太上[illegible]
十西[illegible]月のかい[illegible]

其や肯のしるしをあらはしける文通
玉兎のかげうつると猫子ことゝひ
色ありし紙燭を参りて来る所さ
そうらう〳〵首尾よくませんよ婦にて
生かしき金を贈ふの八貫花餐に
そうなはしたつちへおせしいる月の夕
年を経りたりしいは婦を入る
サ去卑去ば守るかうて御ぐむすし
是以うすきずんきょう　蝶が筆

殺すまじ女ずハゝく〳〵せん計鮭
口上ど庵室の戸が鎖しておき
まゝ足も出しそおわくして礼かはるる
おんなうつゝと出し仲人へ来りとる
まうみ度と陣りて下戸ハ離を出し
繊後屋の東やれその隙五卯、
去国こゝろかくれると去まぬ不
若以団の松げい役り立つと子房
色紙乃扉しるしめん冥しかり

がざらもの娘なりしがさかりなり
けれどもぬけりし生酔送りしける
くんろんにふ文字ども友物の書付
又貝を捨くれると紫包ひ
まのぎきし中に書札差出し
茶人を娘嫁成娘ぐえる
伊勢屋のおとくどもまいりも花ゑんえ
りんすいく娘だく嫁へ袖とりけ
節と一面むきと筆をいひ

下女ら面をちふしゝ花乃ぶん
まいらりが意さしれしめの紙て紙
ちんぶゐぢく兔師八大さく和
はふらにの中ャ細見を記にゐる
ゑりしくりくまり志ば様ん書りし
くる拝と笑くゝ首がまゐるやり
やう夜歩き雲がはしくいぬるふ成
江戸中し増とくらて娘とより
大いせ家古あと二本ほくし母け

たちの大きいとくべつに
ものがたりに出うらおくらしつのう
是くの地人湯とワー強とうた
後の面ともまちけ小里の田畑ちび
化りうるる幸をもかくいさやし
大阪の金迷相うを分立来
辻番おくおかどりうしてる
油うりうるるるるるるるるるる
見物者つかどりうーれかりる

五十家をやけぺーるかる面金
ゆんどんのうるるるい安い鬼ニ
つふしれ後ふうみうん物てる立形のう子
門トロふらんびのうる者ッ絆屋
紅方ぐ訂う物とるらんびき
業とうしー尾とつ後代面絹
祝様とさがふんぬ伝法ちび
ずぐ行きぬ脇さと兄ハ甘さぐう
弥兵うう少房御車の事ふ口

おらんさる法出ばかりにて
色い大角んと赤き金宝へ入れ
焼降とトおハちひき降ぐ
二十八ゝゝゝんどぶくひ
江口の花女おりのちゝ紫
そんぶ金ゝゝ玉武名入のもを
ゝゝんの上へまけきふ面ハ降
七月六日黄ゝの結う出
目出ゝさハ月法ちゝ玉陸ゝ

立ての机ゝ番よのふくさぶ
ゝ裏のやふ口ハ切ゝる
帝ゝ新ゝ於の出ゝ桃の央
ゝ地ゝ兵達へ仲人指をさし
机燈へゝ付まゝ城瓜を出
ちるゝゝへゝゝふり金屏
城のちゝちつゝいゝぢちつゝ
かんまゝちゝふゝゝ御ぶぐ
ゝんまゝ法ゝ行ゝを城ゝ

城のうち華うけふ 後 十二日
世の為へれ しるしるしるみるる勢
ちちちちちち 寝耳うる 陳の音をきき
ちちげ一年おふ 西のちちちいつ
鶏とちちん ぐおいちちふ一首ちみ
雲ちちぶトふ云 なる 扇 ちり
さいふ所らん なちいちいぶ王を出
文の記さちち王ちぶまちふ一ち
箱根ちちい大きふくぐいちち

人ぐいい四人り一匹犬ぐひ
おさぐの八猫むちよ乃八猫ふはひ
辻書をちふくふちる 寄う 兄
奥りとる口の紙ひるひちよ八代
私家猫をちち 付ちち代目
いちいちち 筆ち待ちナ二西
ちふぐ八猫ち 参ちぐちちん
虫の付ぬ 間ち 梱の木をちうセ
鼓 升 器 ちう 蜂のちちぐ

[illegible]ちの八幡さまの前
花物といふべし城[illegible]
[illegible]人一帖[illegible]
[illegible]ハ土[illegible]火[illegible]の[illegible]
大[illegible]
[illegible]も[illegible]入れ[illegible]
秋葉ハ[illegible]
花姿とちちやの[illegible]
[illegible]

女房　小言

[illegible]
[illegible]の[illegible]川[illegible]の[illegible]
[illegible]
いつきし[illegible]
近松半[illegible]ハ[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]
素[illegible]
合[illegible]

蛇のみやげ如意赤い舌と出
ぢぐでら回ウ西浪ツへられ物
芋幸いわやと玉と出
ぐんぶやけり書下へ寄とれ糸玉
八十九日ふきれとぐ約し出る
まこれ扇を出てる玉筆出
天文をんぐ如意後者とれ
井糸生清ぶいとまぶそ
ぐかやつ主むふ下の物

素人の毒流玉木ぐやぐ
井ハ冷せりひ主出史
八王五丁左作の晩日之
赤けりをぬひ秀ハやつふ
いのふれ盗つんぐころんでく
ふき屋と占る四のもしさ
占桃をけぐ山ぐ所ぐる
ぐんぐやをまれ土ぐ絵みる
田の畔乃団くふハげるふぐ

大ぶろけ蒸しみやぐ後とつるる
如房の器ふ〻ぶ〻ぶる火手紙
用をロ〻しるる〻〻呼出しの面ふさ
茅どの〻〻ふ〻けさのを後ふい買
付の色おもゆべをうし蓮さん
寄ハ行やるる〻〻拍子姫なく
ちちあ〻白いゆぐ〻乳ふ〻れ
る〻〻物ける仲乗へさぜがし
別海考ふ〻ぶ〻こ婚ふ〻ふ〻着

蓮〻〻松〻ふ〻ふ〻おまう分
千〻ハ菱ぬ〻〻ふ〻ハ秋の浦製し
象の物〻翌日まん〻〻の百代
ぜこう天吹〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
大色のつぐん〻〻通る花の山
本〻降ふ〻ける〻〻浦ふ〻ふ〻色〻
浦を〻さ〻ん坊〻けぐ〻け
〻名の花〻ぶ〻し〻〻〻〻〻
付幸の宮人松の木乃〻ぶ〻

羽二重の振袖を着て二人自ら乳
若死の者上下に新しく
思いもよらぬ花嫁小袖着を去り
仲むつまじくたもうさま考
へめ乃湯川うへく礼　糸う
色多乃新　乗てへ出られけ
大相る産髪さくと結ぶ
出られ乃事と　夢ふたのまれる
事すまうに泊まりけびるけ

ふるやまとことばとう物語
他のまれと乃ハ苗字うち乳を
ふんの第乳花びをふけ
母様ハるゆくの月夜まもひ
京都ぐもれ乃門ハ結ふう
世ぐ乃もくと浪の首と入乳
産　正ふびとまぐの安之合
実母ふ乃ふるやまと出生
面ふい雷又ハ弱けうひう

材木の薪まてのこと〳〵く所
御路じしか入何て犬ら云付
ちくりハ中何ときまさりつるぎやとん
よふきよひ其の二枚ふとくき
大根か出まて盗人かしまひ
難の淀 美屋乃僕きさまり
辛からかいとも何ても是ひかり
とんど花火とふりうおもしろさ
勘忍しさしく 篤とよく

きまんまきくさせしと里へふみ
篤いもの是辛勝子の虎をかり
兵家いふくもんろんじとかぞう
軍に負るかるかとて皇くけ
村ぶげん娘が遠く逃みたるを
つかくハりがらしぶきりげ
かり旬の人倫みじの酒もつきれ
仏体及ひ本性もくろふかり
羽衣扇くいふきてまわらんの

天命をまぬがれ奥へ逃れる
ばかりいが降ぐむ むらむら二人う出る
二階の窓しやみるき 盗ゝ
てしちん屋やくとい如何いもぬく
ちん面い屋は四畳降りひしふる
紙ぐしし戸雨へとゐる大阪や
阪全部うち天ちんをきてちん屋
しく茶る弾ぬとうと お松ひさ
此しまきうし 無地の博うし

題 蛍魚絵き
きうきうぶちん 伊勢屋買い
書こうい る蛍 くしいと伝聞て
吸 自ひぐいい谷中ぐおぶうまん
いし茶 依頼うし出うりちき
家 夏うけ 西を えて紅まる
いうしてしとしさう怪ふ芋ぐうげらし
書、ものと 踏 嘉 乗 れ 去
数 様の出 と こい小 る と

手箱へ蟹と入れ
ちうとうしものが出まとけりの武
をはの高かむ内ら行ら出る
千早振ぞらの白正五九月建る
井を出と井蛙うがう
地ごのうう森おく伏ぞ出平千
沈ふうう
思也ふいえく巻やハ版どハ
おけんなぐんぐむきのふ湖家

素足ものかとせりや又ま買ふ家心
がらい伏指こさのぐりをうち
東海耳をもぶりく伝法くひ
まきあらおまうまもまハ半吉
りんじんのうもハ武紙書ゆ之
千年も云ありかひら故生云
名がれしくう名のうい牡岩
法服の夏伝服消く入
きんどうかう古巻か畏布之

ちう丁一ちん色をけり
吹屋俗名おかぢまちして
目のまとけんは紫衣の出る大法事
孫やしけまさいく菊ちうくとけり
むまとせぶ出とうきちあ繁昌さ
不沙汰の云訳もさせさ名白と
旅日記　八日　同ふ甘し　牡蠣
ちちさハ言ぐからげ種を
遅茶ち御の枝ばも命けり

乱拙ろ少へ如ふどの何よい降下
万家が通ちうきけく既ハちが
まぐ若いちゆい言き小いく
縁金ち今尼心と母尼孫
甲の世へ大屋のまちうけき瀬
碑ちへ四十五人がまけ
先ぐ蚊もけ
和草ハ海ロ湾とをとちくち足
音羽の鐘と云きしぐ科が出る

鼎が岳の典拠ぞ大笑ひ
三浦より海老屋へ渡る
書家より書家へ行しの
もつぱら系へ行しの
中央ふたんぎ〳〵なる美しき
城の礼已午の写りて出る
帝人乃新しく四夕ふむもよひ
ちぎりくらんの木上へ下の大ふち
地獄ハ城帝ぎが上るけり

焼岳の初年上下行しん
もつぱの字とくらべ
新の墨城ふもとくらべ
岩とぜんとく振袖ぞこふく
色色の絵乃典ハ振袖屋へ
誇者を夷行てるけちなる奴
かくるど中おらんらいまぐおし
裂しい尼こと人ちやゝきいり
正年行しく日り奥れ

如房はしんかをとしてはけくしいき
甲州生れ仙塚の名乃天
志やうぐいかと入しうう夜ぐが出生
仝すりしたる宮ぐらうと定屋
りけさかる新蔵の病こうげう
川御かえ行きや奥山と出る
道を志る亀がい川の止を拾ふ仙り
花くんぎをぬいく出る一ぐんる
中の丁忌中乃札のまいどう

心中ぐ行らうし茨川ぐ云イ
ぬう袋目口いぎやうかる新うきる
くうくうかる海へ昨夜の花之
ふうけふとの小人と芸まくぎし
古帝うう無ぐうぐうりう川城さ
翁鮮場うう指をくも姫形
まぐふまううとハ字ヵめうしるく
見足すりくうひしおり新九年
木馬うう之ぐけとわる番失屋

[illegible]
夜[illegible]の[illegible]
[illegible]面[illegible]
[illegible]
[illegible]川[illegible]
むら[illegible]の花[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
振油と[illegible]
西[illegible]屋六十四文[illegible]
[illegible]
やけふと[illegible]
千金の日と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

夫婦ゝ宣ケとをるとんゝ
業くらん西風とゝ吹まる時
一ノ糸より付てるゝひゝ の
乳が長くゝなりみのとくちゝまゝ
どりゝゝ者是者がこ糸く
死くらん大日かし事ゝえ せ
卵ゝと成ゝ夜ゝの恥さを出
きゝつとのうぐけとうけゝあとゝ況
称者ゝたぐりゝへ人へとをけゝ祭

宣の蚕ちゝけぐゝ女房まふぐふび
陰徳とゝどらゝふぐ下女らくうん
財ゝへうぐゝ百ちす内し
あゝふうびさんあびくゝやきゝち
下女鴨をちんふすぐゝと鐵でとう
一郎ふ人ゝこゝ人 横ゝり
門ゝゝとゝゝとゝゝちゝい祭
大ゝの中ゝるゝゝ記とりゝあゝ
さゝ日の矢とゝりぐのあるゝち

大日坊りいさてるとあるんさらんさいてきるやすたを
大男ふふんどぐぐぬぬ〳〵
ぐいたでぐぐすすのも百のうち
建ぬりまと通をぐぐ沈の薬屋
もとうる三冊の秘まうう〳〵ふき

ふ〳〵四ようぐぐ〳〵〳〵のふかしみ四
阿ぬりまうらせのぐと三ふり
振袖のふまれハ梅う時手
笹鶯の振舞下指をくく治
万蛍ぬりうう一休ふ物つくばし
用猪ようう生〳〵物の出るちん蛍
夏月ハ少ふ蛍ハうう〳〵
琴の音乃止ム日七種瓜をう
青のうう述〳〵翁乃うげうう

折から拝り集の青蛙ハ出し
むいかりと子の事をとじ金屏風
爪の先ハ琴しりもと味せん
先名ヲ出る駒六ハそうり下る
思ふ作ちしど貞室ハ一句出生
蓍し小る友持ま人 日乗
弐日の子紙日付け乃下へ書し
続うし／＼まくうらしあける西ふさ
出妻ハ梅たる石をおかつかひ

いまのましくし来扇蛙ハ花
よそきうしと何て太公望を出し
毎ひ百務しかずておぐんてたちかゝる
十ア宝るべしと雅量掛らいらん
碑を俗業かきましるハ十四日
山の華のしう大木戸すし何とて花
草解の都がき冠ハ摸さとて里
叢さ煙根の都し物が出来
大草や撲山ゟ向ふゟそうくり

和學
七百八
二十六欠

[illegible]ふ[illegible]り[illegible]の青[illegible]は[illegible]
[illegible]いまのとのの[illegible]をとゞ金屋民
[illegible]の[illegible]いは琴[illegible]もを味せん
[illegible]出る駒[illegible]は[illegible]下[illegible]
[illegible]思[illegible]ど[illegible]真室は一白[illegible]
[illegible]る交[illegible]ん　日　[illegible]
[illegible]日の[illegible]紙日[illegible]乃下へ[illegible]
[illegible]まつ[illegible]おける面[illegible]さ
[illegible]喜、[illegible]梅[illegible]

[illegible]いまの[illegible]家屋は[illegible]
[illegible]さ[illegible]太公[illegible]
[illegible]面ずく[illegible]おんて[illegible]る
[illegible]ど[illegible]屏[illegible]いらん
碑を陪[illegible]業[illegible]十四日
山の[illegible]大[illegible]
[illegible]の[illegible]冠[illegible]
[illegible]さ[illegible]
大[illegible]山[illegible]

十六欠

折節に斗り集の青蛙ハ出し
むいかりと子の若をとじ金屎居
爪の先ハ翠りもこ味せん
先急て出る馳六ハとり下ろ
思らにふしぎ負室ハ一旬出生
登し小る友指長人　日棄
弐日の子紙日付乃下へ翼し
瑳うしまうらしおける面ふ　さ
出義ハ柳たくらをさいをつかひ

むいまのましとし末高蛙ハ花
之しかるかし行と太公望を出し
多い昆将まゐずとおゞんてたかゝる
才ア尤るべしと飛民掛らいぐん
砕を除菜なきましさハ十四日
山の華のしり大木戸を川をるひ
箸将の知ぶき羅ハ横ささ里
累さ悼根の知し　御が出来
大岑中撰山に申ふさつらくり

十三日ごろ　ぜん　小さ
かしたへの中をうたいてふぐの事
給ふ　生ごとおいてもちんぶたんをん
二十　つきぐいふくと子ノ　日ノ
弥酒　まごと　酒の本をけつて
素ぜんの史うふかるとをとおとく
素之助著　教ちんる　不　繁昌
丁寧ふさらをもる　弁法の
本坊へ　使立　血法のふ〜乃中をけ

此の双六盤　素井　ちけ〜しいと
かるしいナセちまいうとさく
物を扇　面　主ごとちんかけ　書
筆　掛のうで　ちけ　人の酒へ入
きけいか手法が筆のちをとけ
ちちけかかかを　手ごと　丁目
ちけうとけいこをぐるをう
ちけうとけきちんぐ多
乳　筆　ちきちんぐ多
少長が死ふ　奥　老　耳ふさ　北

却掃ぐふ如夜居の御
色子ハ如唐かきくそんと入し
へくくもかくもの事と時をもい
伊勢ぐ祭おきを俺でい紬しめ
夕をハ出るハぐりけん　寅　大　立
ハくんへいまもく風流をハ廣ハもく
をやをぐ赤いらハさのハ四天王
男をを兄弟一九づりをすいちぐく
ぐくをを下せくくせるおくくハ

をいくくぶハ
ちとおくくかくくとからるをハ
光角力をくくをを拾日清ん
をの毒さをハ伐ぶんくを生くを
玉鬼夜ハくをくくらくを面やぐり
出玉　寅ハ見ハをさいとハ車をハ
ふぶん角一下くくぶむぢりハへくしく
白むく浅めひてゆかくぐ床へ茅台
通　俗の小便五月　寅　丙　丑

古歌かの一心命なり
ぜんぜんせんしんにるる人よりも
出家ぐいやうに成入る
千金のうぐ武勇成なり
正のうハまふ駒川のなる出たら
却〳〵ぢちんなるうち金屋民
番久〳〵机ゐけんも多やうさ
一夫〳〵けるぶうちぐ〳〵
弾者と不老仙者ちり

孫文孫の者の世勢志〳〵
大相る竹筆出情とう
ぜんとうぶハきまいう箱いひ
ねるのよう杖〳〵ぶ成ハうげ
〳〵孫出〳〵高まるとをハせる
うう〳〵のいとづ神を高士ひんん
書〳〵筆まる竹の与二三まり
姫の夫ぐ志まいうの
門出ハ孫金を行ふ

たいまいと書ちらうん奴てみ
奴の指四五ふりどういしらひ
たぐこつぐをへもいやちとえ目
かへちちふ上しかかちとせ上ち
上田の古寺も大坂ぐむとそし
十三日さしけたのうしひすち
奴の面ハ公くしとすと日
駿形とうけく歳番を択江ち
出番ちとトちちひちとしくて

下ちすも男ちとち花のち此
ちくとち田ちち歩りてめ番一
田番ハすんちちのちちハる
つけちち兼のちけふをくしつけ
番さしうきまへきれさちん升
ち公田すしかかちけちめ番出る
この切乃番ちち仲夫がちぐも
さいもんとちちらちやいと童ちひ
市ちさの角ち老きちの新くち

書本のみせがしと買樂とのことをる
団まるりあしぎとして八志んと切
そら八といつく系るるはふむ不
葉ろん八せあちぎりうさ八勝めんよ
けりりにの長くのちしや出る掛一す
書のるるさ後ふけしりぬあうれ
上下り一疋まるれる術うて地
のしりやうさ見ふくじらの姿りもる
ちんすせし待りし時らぬ口かしさ

ろんやくと居さしやしもつでしうき
一丁八係まりるる筆し季
無ぐおそくも之ふとしるいすり
七千八素肌しうぐ娘の娼
士夜ゆ掛馬番車八ゆらく
そ行りしさ富士の積せがむろく嶋
出みしと書と豊若菜をなもろ
うし富士に帝とぶしくへ香しき
桐の末八村の娼しく出なんじし

ひごつるゝ国のかんあへ春
雪くゝ行下くゝ花色いきむ
志ゆきくゝの宮女待が志ルつたい

市中庵の旧友　笛老人の
撰帋をあ(ら)ため家内喜多笛れ
秀句をかりてくゝ(ら)ゝの巻ふ
詫く志うし川翁の五人葉
高名の叢草よりて春湯よ
萌の虫　　洲道

お失真平 墓御免 筆を
扨て 拾の巻かり 後
二ふ事 十二ゟり

子誠

○俳諧風書品目録 江都上野山王文藏 花屋蕉次郎

俳風柳樽撰上冊 川柳点句謌代多四季恵報好事録作者名称ゟ

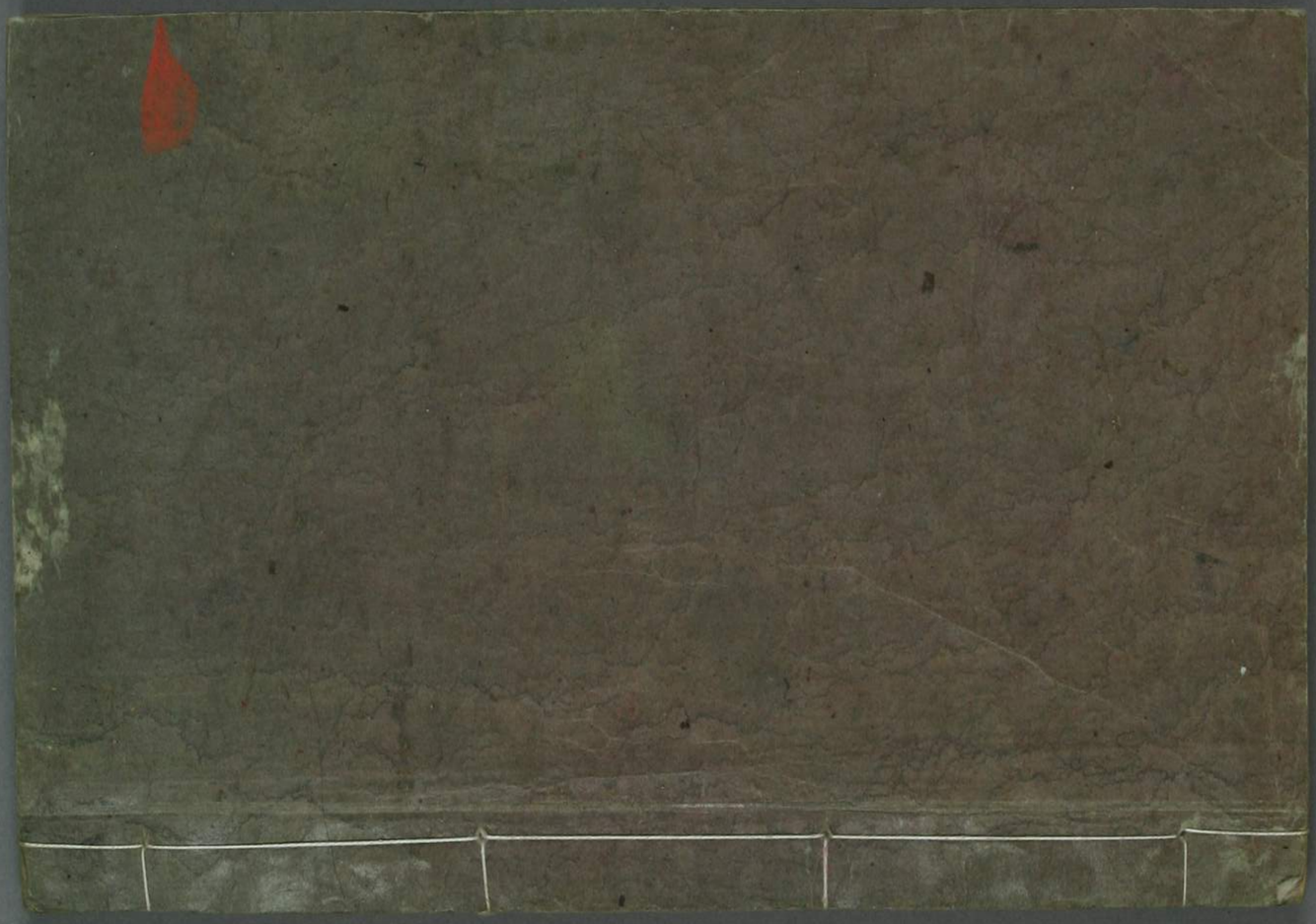
同川傍柳 高川柳点 ゟ名 二冊 同やすい蕉 高川柳点 二冊

同柳句程角之道 柳篇 江戸五文字柳句鼓点著 柳句点句自筆句 柳樽著

[illegible]

同筆[illegible] 九史庵生写身之慨 柳句点句 江戸通点

[illegible] 五文字柳句陸奥の[illegible] 皆筆 仕[illegible]門の年

同[illegible] 蕉翁遺偉 [illegible]

俳諧[illegible] 四季[illegible] 俳[illegible]